

島根県におけるミチノクフクジュソウ(キンポウゲ科)の生育地

兼子 伸吾*・井上 雅仁**・三島 秀夫**・高橋 佳孝***

A new locality of *Adonis multiflora* (Ranunculaceae) in Shimane Prefecture

Shingo Kaneko, Masahito Inoue, Hideo Mishima and Yoshitaka Takahashi

Abstract

The large population of *Adonis multiflora* in Shimane Prefecture is reported on the basis of the detailed examinations of flowers morphology. This population is only one reliable population of *Adonis* species in this Prefecture. This *A. multiflora* population has high conservation value due to the rarity of *Adonis* species in west Honshu, Japan.

Keywords : *Adonis multiflora*, new locality, Ranunculaceae, Shimane Prefecture

日本に分布するフクジュソウ属植物は、従来フクジュソウ (*Adonis ramosa* Franch.) の1種だけと考えられてきた(大井, 1983)。しかし、外部形態や染色体数の違いに基づき、現在では4種のフクジュソウ属植物が認識されている(フクジュソウ, キタミフクジュソウ *A. amurensis* Regel and Radde, ミチノクフクジュソウ *A. multiflora* Nishikawa and Ko. Ito, シコクフクジュソウ *A. shikokuensis* Nishikawa and Ito, 2001; Nishikawa and Kadota, 2006)。

ミチノクフクジュソウは、1989年に新種記載された種であり(西川, 1989)、園芸用の採取や管理放棄などに伴う生育適地の消失により絶滅危惧II類に指定されている(環境庁, 2000)。ミチノクフクジュソウの特徴は、近似種のフクジュソウに比べ、1) がく片は花弁に比べ短い(フクジュソウはほぼ同長)、2) 分離複果はほぼ球形(フクジュソウは楕円形)、3) 染色体数は $2n = 16$ の2倍体である(フクジュソウは $2n = 32$ の4倍体)、などの違いがある(河野・林,

2004; Kaneko et al., 2005; Nishikawa and Kadota, 2006)。

ミチノクフクジュソウの日本国内における分布は、日本の東北地方から九州、朝鮮半島とされていたが(Nishikawa and Ito, 2001)、中国地方からの報告はなかった(河野・林, 2004)。しかしながら、近年、従来はフクジュソウとして記載されてきた広島県ならびに岡山県産のフクジュソウ属植物が、ミチノクフクジュソウであることが、形態の精査ならびに核型の分析によって明らかにされた(Kaneko et al., 2005; 池田ら, 2006)。島根県においては、青野山と十種ヶ峰からフクジュソウの報告があるものの(島根県, 2004)、それらの生育地の現状および形態の精査や核型の分析に基づく種の同定は行われていない。

筆者らは、島根県西部、十種ヶ峰近くの鹿足郡津和野町において、まとまった個体数のフクジュソウ属植物の群落があるとの情報を受け、2007年3月ならびに4月に生育地を訪れ、種を特定するために外部形態の精査を行った。また付近の住民に聞き取り調査を行

* 広島大学大学院国際協力研究科, 〒739-8529 広島県東広島市鏡山1-5-1
Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima University, Kagamiyama 1-5-1, Higashi-Hiroshima 739-8529

** 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane Prefecture

*** 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター, 〒694-0013 島根県大田市川合町吉永60
Japanese Black Cow Production Research Team, National Agricultural Research Center for Western Region, 60 Yoshinaga, Kawai, Ohda, Shimane 694-0013

い、このフクジュソウ属植物の個体群が、採取栽培されたものなのか、自生するものなのかについて検討を行った。その結果、津和野町において報告されたフクジュソウ属植物がミチノクフクジュソウであること、ならびに自生である可能性が極めて高いことが確認されたため、ここに報告する。

生育地は、植林地と畑地の境界となる緩やかな斜面で、定期的な草刈による管理が行われていた。生育していたのは、約1500株でそこ以外には見当たらなかった (Fig.1 A)。花は花茎に1-4個がついていた。花弁とがく片の長さを測定したところ、花弁とがく片の長さ比は0.65-0.89 (平均0.77, $n = 30$) であり、近縁種の萼片より明らかに短かった (Fig.1 B)。また、個体群内の個体の半数程度が花茎1本につき複数の花をつけていた。これらの結果から、津和野町に生育しているフクジュソウ属植物は、これまで報告されてきたフクジュソウではなく、ミチノクフクジュソウであると考えられる。さらに、聞き取り調査の結果から、今回調査を行ったミチノクフクジュソウの群落は、70年以上前から存在していたことが明らかであり、植栽集団が起源となったものではない可能性が高い。

ミチノクフクジュソウは、個体数が過去10年間で60%にも減少している絶滅危惧植物であり (環境庁, 2000)、津和野町のミチノクフクジュソウ個体群は、島根県内で現存が確認されている唯一のミチノクフクジュソウ個体群でもある。したがって、本個体群の保全上の価値は極めて高く、定期的な草刈等の管理を継続し、現状のまま維持していくことが望まれる。

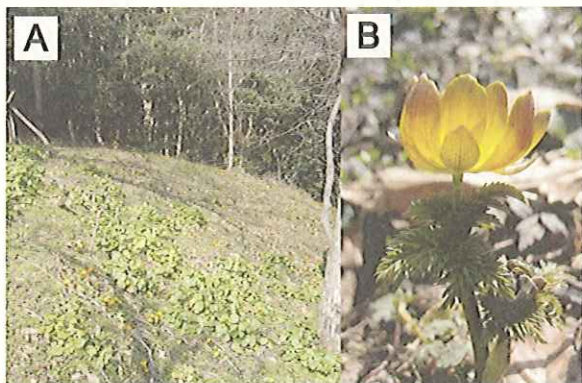


Fig.1 島根県鹿足郡津和野町におけるミチノクフクジュソウの生育地 (A) とミチノクフクジュソウの花序 (B)。がく片は花弁よりも明らかに短く、明瞭なミチノクフクジュソウの形態的特徴を有している。

確認標本：島根県鹿足郡津和野町 (M. Inoue et al. 070310, 10 March 2007, SNMS)

謝 辞

調査に際し、島根県鹿足郡津和野町の板陰氏には現地を案内していただき、聞き取り調査に協力していただいた。また、西日本草原研究グループの皆様ならびに広島大学大学院国際協力研究科の中越信和教授には本稿をまとめるにあたり、ご協力を賜った。研究に際しては2006年度および2007年度近畿中国四国農業研究センター研究強化費 (特定研究) を利用させて頂いた。あわせてお礼申し上げる。

引用文献

- 池田 博・津坂真智子・兼子伸吾・狩山俊悟 (2006) ミチノクフクジュソウ (キンポウゲ科) の新産地と核型. 植物地理・分類研究 54: 65-69.
- 環境庁 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—8 植物 (維管束植物). 自然環境研究センター. 660pp.
- Kaneko, S., Y. Isagi and N. Nakagoshi (2005) A new locality for *Adonis multiflora* Nishikawa and Ko. Ito (Ranunculaceae) in Hiroshima Prefecture. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 56: 261-263.
- 河野昭一・林 一彦 (2004) フクジュソウ. 河野昭一 (編) 植物の生活史図鑑 II 春の植物 No. 2, pp. 1-8. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 西川恒彦 (1989) フクジュソウ属の一新種. 植物研究雑誌 64: 50-52.
- Nishikawa, T. and K. Ito (2001) A New species of *Adonis* (Ranunculaceae) from Shikoku, Western Japan. Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo, Ser. B. 27: 79-83.
- Nishikawa, T. and Kadota, Y. (2006) *Adonis* L. Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. (eds.). Flora of Japan IIa, pp. 287 - 288. Kodansha, Tokyo.
- 大井次三郎 (1983) 改訂新版 日本植物誌 顕花篇. 1560 pp. 至文堂, 東京.
- 島根県 (2004) 島根県の絶滅のおそれのある野生生物. 270 pp. 島根県環境生活部景観自然課, 松江.